

9条は合理的な安全保障

今回の岸田政権の敵基地攻撃能力の保有と大軍拡は、事実上の憲法9条の破壊だと考えています。

安倍政権が、教育基本法改悪や秘密保護法強行、それに安保法制を強行したとき、自分の生きてきた世界が、足元から崩れていくような感覚に襲われました。特に安保法制をめぐっては、憲法の解釈を一内閣が勝手に



神戸女学院大学准教授

景山 佳代子さん

に変えてしまう「前例」をつくったことが問題でした。国会も議論も軽んじる政権によって、民主主義への信頼は大きく損なわれました。「どうせ声をあげても無駄」というあきらめが、政治への無関心を一層加速させています。岸田政権も同じようなやり方で大軍拡を進めています。

戦争は「不等号の政治」だと考えます。より強い者の論理を優先し、より弱い者を切り捨てるのが当たり前にされるからです。戦争は多様性や民主主義とは真逆です。そんな社会で一体誰が幸せに生きられるのでしょうか。

日本の人口動態、食料自給率、貿易統計などを冷静にみれば、米国追随の軍拡競争への参加は、米国の国益にかなって、日本の国益にはなりません。日本がおかれている条件に照らせば、憲法9条は一つの合理的な安全保障策だと考えます。国際社会での日本の安全を保障するのは、軍拡ではなく、軍力をもたないと国際的に宣言する憲法9条を活用した平和外交です。(聞き手 若林明)

岸田大軍拡 異議あり